放射線データの概要 2月分(2月1日~2月28日)

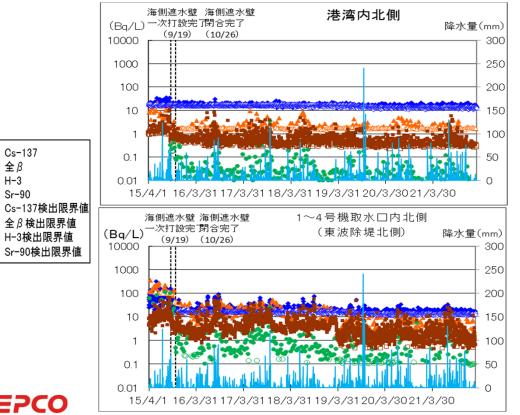
- ●2022年2月に公開したデータ数は約13,000件 (「周辺の放射性物質の分析結果」「日々の放射性物質の分析結果」のデータ公開)
- ●敷地内ダスト(粉じん)濃度は低い濃度で安定

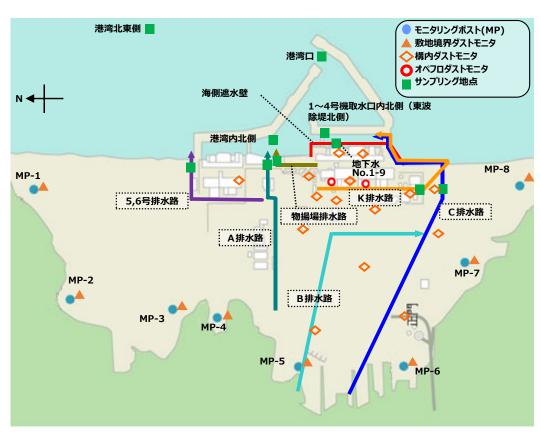
1号機では、2022年2月8~10日において格納容器内部調査を実施。2号機では、2022年2月17日から原子炉建屋オペレーティングフロア内の遮へい設 置作業を実施中。また、2022年1月7日に、原子炉格納容器貫通孔(X-6ペネトレーション)付近の床面凹凸除去作業を実施。床面凹凸除去作業時、 作業場所に設置しているダストモニタのダスト濃度に一時的な上昇が確認されたことから、作業を取りやめ、追加的なダスト抑制対策を講じた上で、1月26日 から1月29日に床面凹凸除去作業を実施。1月31日から2月4日にX-6ペネトレーション配管磨き作業を実施。2月5日にX-6ペネトレーション付近の床面ひ び割れ等除去作業を実施。これまで同様、敷地境界を含め、敷地内ダストモニタのダスト濃度に有意な変動はない。

●港湾内海水の放射性物質濃度は低い濃度で安定

港湾内北側に係留していたメガフロートについては、内部のバラスト水処理・内部除染後、開渠内北側へ仮着底し、その後内部へのモルタル充填作業が 2020年8月3日に完了し、津波による漂流リスクの低減を達成。その後の護岸工事、盛土工事については2月25日に完了した。工事期間中、1~4号機取 水口内北側(東波除堤北側)の海水中セシウム濃度は、降雨後に一時的な上昇が見られるものの、速やかに低下しており、工事の影響は見られなかった。

〈海水中放射性物質濃度〉







Cs-137

全β ▲ H-3

Sr-90

全 ß 検出限界値

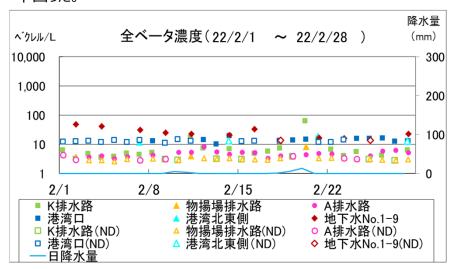
Sr-90検出限界値

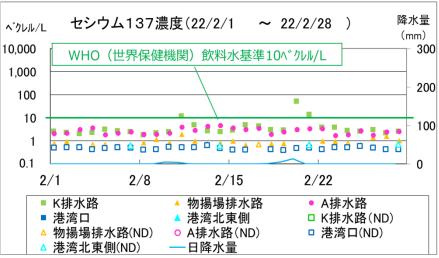
△ H-3検出限界値

放射線データの概要 2月分詳細(2月1日~2月28日)

A 水 (海水、排水路、地下水等)

- 降雨時には、排水路の全ベータ濃度、セシウム137濃度が一時的に上昇。
- セシウム137濃度は、降雨時のK排水路を除けば、WHO飲料水基準を下回った。

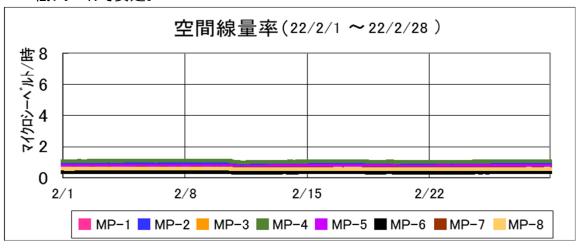




- ●全ベータとは、ベータ線を放出する全ての放射性物質。カリウム、セシウム、ストロンチウム等が含まれる。
- ●海水の全ベータについては、天然の放射性カリウムが約12ベクレル/L含まれている。
- (ND)は、不検出との意味で、グラフには検出限界値を記載。
- ●地下水No.1-9については全ベータ濃度で監視。

B 空間線量率 (測定場所の放射線の強さ)

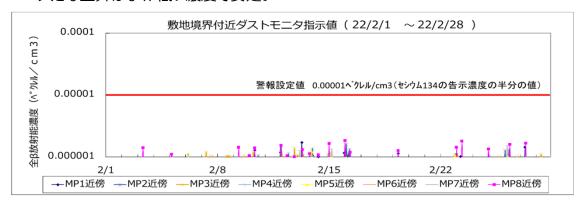
・低いレベルで安定。



敷地境界における1時間あたりの線量率を3マイクロシーへ、いいとすると、例えば1ヶ月間この場所で作業を行った場合(1日あたり8時間、20日間作業をしたと仮定)の被ばく線量は約0.5ミリシーへ、いいになります。

○ 空気中の放射性物質

・大きな上昇はなく、低い濃度で安定。



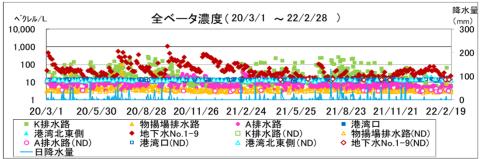
●告示濃度とは、法令に基づき国が排出を認める濃度。国内の原子力施設共通の基準

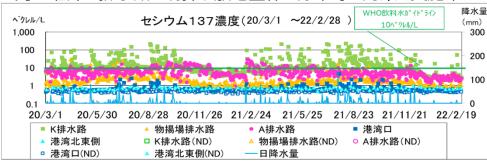


放射線データの概要 過去の状況

水 (海水、排水路、地下水等)

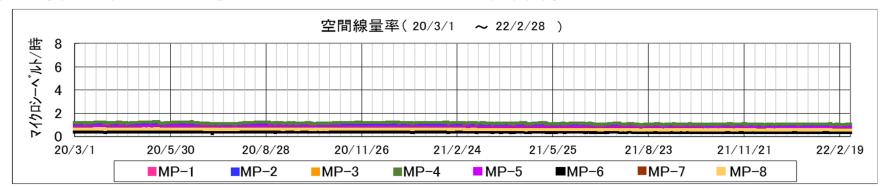
- ・港湾口は低水準で安定。セシウム137はWHO飲料水基準未満。
- ・K排水路のセシウム137濃度は、降雨の多い春から秋にかけて上昇がみられ、冬季は低下。排水路の清掃や敷地全体の除染等の対策を実施中。





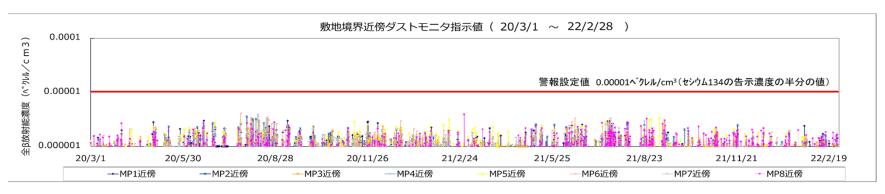
空間線量率

・汚染水の浄化、除染、フェーシング等により、全てのモニタリングポストにおいて低下傾向。



○ 空気中の放射性物質

・ダストの濃度は、大きな上昇はなく、低い濃度で安定。





サブドレン・地下水ドレンによる地下水のくみ上げと分析

分析結果・排水の実績

- 一時貯水タンクに貯留しているサブドレン・地下水ドレンの分析結果で、セシウム134、セシウム137、全ベータ(ストロンチウム等)、トリチウムが運用目標値を下回っていること、その他ガンマ核種が検出されていないことを確認。
- 同じサンプルを第三者機関にて分析を行い、運用目標値を下回っていることを確認した上で、2015年9月14日から 2022年2月28日までに合計1,789回、1,250,619m³を排水。
- 引き続き、分析結果が運用目標値を下回っていることを確認した上で排水する運用を徹底。

ー時貯水タンクの分析結果(当社分析値)

